



**ビルドシヨクビツ手を
カクシヨ。♂にする方法**

俺は、近所の模型店でこの子に出会った…
突然、売春を持ちかけてきたのだ…
しかも、男の娘…

彼はビルドシヨタビッチ…
が○プラの改造費を稼ぐため
体を売るビッチボーイ…



都市伝説だと思っていた…
しかし、実在したのだ…
俺は迷わず、彼をかうことにした…

そして、あわよくば…
カノジョの「う」してやると思っていった…

イ○リ○セ○
「お兄さん、ありがとう！「ビッグ」ごまあ♡
代金はオプシヨン「みこみで」…
3万5000円で♡す♡」



イ○リ○セ○
「とっても、お兄さん初めてだから
ちよつとサービスして…
3万円に値下げしてあげますね♡」

俺
（手慣れたたビツチ臭：：
いつたいたい、今まで何本チ○ポ：：）

イ○リ・セ○
「何本チ○ポくわえてきたんだ♡
とか思ってるでしょ♡」

アハッ♡



俺
「え：：」（「うっ：：」）

イ○リ・セ○
「ニュータイプとかがじやないですよ♡
お兄さんみたいたいな人の考えてる「うっ
だいたいわかるんです♡」

イ○リ○セ○
「だってボク……もう、5000本以上チ○ポ
くわえてるんですよ♡
だから、経験でわかるんです♡」

俺
「5000……!?!」



イ○リ○セ○
「はい♡模型店で会った人とか♡
学校の生徒ほぼ全員とか♡」

俺
「やべえ……ビッチなんてもんじゃねえ。
こいつ女王♂だ……
5000人以上のオスを手玉に……」

「あんなに可愛い女の子とキスするのは初めてです...」

俺
（だが...負けるか！
絶対に...）

ムキユウ...



俺

（な）んだこれ：：やべえ：：
シヨんタビツチの唾液あめえ：：
においもすげえ：：
においも臭い：：
スメミない臭い：：
オスの臭いも混じってる：：
すげえ：：
こんなの、カノジョにすするしかねえ：：
イ○り○せ○
「ん、ちよっとはなれて……」

バチャ……

ハア

ハア

ハア

「ん、ちよっとはなれて……」

ハア



イ○リ○セ○
「んっ……♡」

俺
（え……イっただ!?
こいつ、キスだけでイっただ……!?!?)



イ○リ○セ○
「はあ……はあ……♡
お兄さんのベロキス、よかったよ……♡
キスだけでイっちやっただ……♡」

イ○リ○セ○
「じゃあ…続けるはぐミズでしょよいか♡」

俺
「あ、ああ…」
（違う…「いっつ余裕だ…」
キスでイッたんじゃねえ…）



イ○リ○セ○
「わーい♡お兄さんもボクに
ハマっちやうかなあ…楽しみ♡」

俺
（自分で「いっつ余裕だ…」
俺に「リードしてみる」と思わせるために…）

俺
「その前に……
もう一回……！」

「んっ……っ♡」

俺
（油断したらハマる……）
カノジョに♂にするどろじやねえ……
俺が奴隷にされる……）

フッ……
フッ……
フッ……



ビルドジョウタビツチやべえ……
俺は、そう思うながらも
イリ・セ○をべツドに案内した……

絶対に負けねえ……
そんな覚悟も決めて……
チ○ポをビンビンにしなから……



イ○リ○セ○
「それじゃあ、お兄さんのキ○タマ……
食べちゃうね♡」

んんん…

くすっ♡

俺
「あ、ああ…」
(そんなヤサービス話してたっけ…)

「俺
!?!?」

「んんんんん
♡
イオリ・セオ」

はむっ……



「イロリ・ゼロセロ
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「俺
「おおっ、おおっ、
（やべえ…サプ…ライズタマ舐め
このビッチのペースに早速…」



シユツ

シユツ

シユツ

ちゅるるる...

「イ○リ○セ○
んふ○：：♡
女の子み
たいいな
声：：♡」

「俺
あ：：あ
あ：：あ
このビツ
チ、すげ
え……」
「この扱
い、うま
すぎると
ころ……」

「ド○……」

「ド○……」





「俺
「あ……うん……
まあ、わかるよな……」

「イ○リ○セ○
「お兄さん……
ボクのことか？
思ってるぞ♡
「♡お兄さん♡」

「フフ……」



「俺
さ……最後は？」

「イ○リ○セ○
お兄さんみたいな人……
でいつぱいいたよ♡
もねみんな最後は……♡」

あーん♡



「イ○リ○セ○
「ボクにね：：
お金と手○ポ汁を差し出すんだ：：♡」

「俺
んおおおおお
「♡」



「イ○リ○セ○
「んあ♡おんあううい♡
「ほら♡こんなふうじ♡」

「俺
「あ……あ……
「す、吸われる……
「ち○ポ汁吸い取られる……♡」

どん♡

どん♡

どん♡

「イロリ・セ○セ○
んく♡んく♡んく♡んく♡んく♡」

俺
「あああ……♡」
「こいつ……とんでもねえチ○ポ中毒……
なんて美味そうにチ○ポ汁飲むんだ……
毎日、何本くらい射精させてんだよ……」

ゴク……♡

ゴク……♡





俺
……畏か？
でも……！

「イ○リ○セ○
お兄さんのチ○ポ……
けっこういいよ……♡
ねえ、代金サービスするから……
喉ま○こ、犯してみない……？」

ゴハフ

ハフ…

トド…

罾だとしても……
踏み込むしかなかった……

引いたらやられる……
心まで犯されて……
そんな確信があつたから……
たからだ……



俺
「は……入った……
根本まで……」



イ○リ○セ○
「んぶっ……♡」
(ほんとう、この子のポ○こいなあめ……♡
955無くはあめげてもいかな……♡)

イ○リ○セ○
「んん〜♡んぼっ♡んぼっ♡んぼっ♡」
（イラマチオとかができないだろぅし…
喉ま○ここ搾つてミルク出しちやお…♡）

俺
「んんひっ!？」
（な…なんだこれ…喉が、喉が動いて…）

ジュジュ♡

ジュジュ♡

ドキッ♡

ドキッ♡



イ○リ・セ○
「んぶっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」
（鼻から出ちやつた♡）
すっごい量♡♡♡♡♡

俺
「あひっ♡」
（今：鼻から出た？）
飲み切れなかつた？

ハハハ
フツ

♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡

♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡



イ○リ○セ○
「んぼっ♡
ちよっ♡鼻からでっせった♡」



ゴボ

俺
（ミスだ…
ビルドショタビッチもミスをする…
今だ…ここで押し切るんだ…）
「なあ…セックス♂しようぜ…」



「イオリ・セ○
いいよ：：♡
ほら、オスマ○」
開いてみて♡

「俺
え……これ……」

「イ○リ○セ○
ボクの子○ポ
ミルクだよ♡
あさイチで仕
込んだから
ほかところにな
つてるでしょ」



「キロ!!!♡」



イオリ・セオ
「ほら……お兄さん♡
ボクと、お兄さんのミルク……♡」

イオリ・セオ
「ナシママの母乳……
混ぜ混ぜ……♡」





くす...

又か

「ふふふ...」
「勝つた♡」
「これです♡」
「でもいらないもんね♡」
「た人、落ちなかつた人、」

俺
(混ぜ混ぜ...するしかねえ!)



俺
「す……すげえ……♡
「このま○「すげえ……♡

イ○リ○セ○
「あは……♡
今だけはお兄さんのま○「だよ♡
ほら……動いてみて♡「

アハッ♡

きゅ♡

キゅ♡

きゅ♡



俺

（やべえ...
りーど+「ま...
でもでも...）

又ッポ♡
又ッポ♡
又ッポ♡
又ッポ♡
又ッポ♡

「あいつ♡あつ〇
その調子で♡あいに♡
腰振っ♡て♡」
「あいつ♡あつ〇
その調子で♡あいに♡
腰振っ♡て♡」



俺
「きゃ……きゃわちこ……」
「……♡」

イ○リ○セ○
「あん……♡
お兄さんのミルク
すごく熱い……♡」

とんぱ♡

とんぱ♡



アッ...♡

「イ・リ・セ・〇
んっ...♡
お兄さん、わかつたでしよ♡
ボクをカノジョにするなんて無理♡
でも...これからも
おこずかいくれるなら...♡
その時は、会ってあげてもいい♡」

ハ...

シヨタビツチやべえ…
完全に負けた…

奴隷にされる…
金づるにされる…

しかし、逆らえない…
そう思っていた…

だが…
逆転のチャンスは、すぐに来た…



ズズ...

ズ...

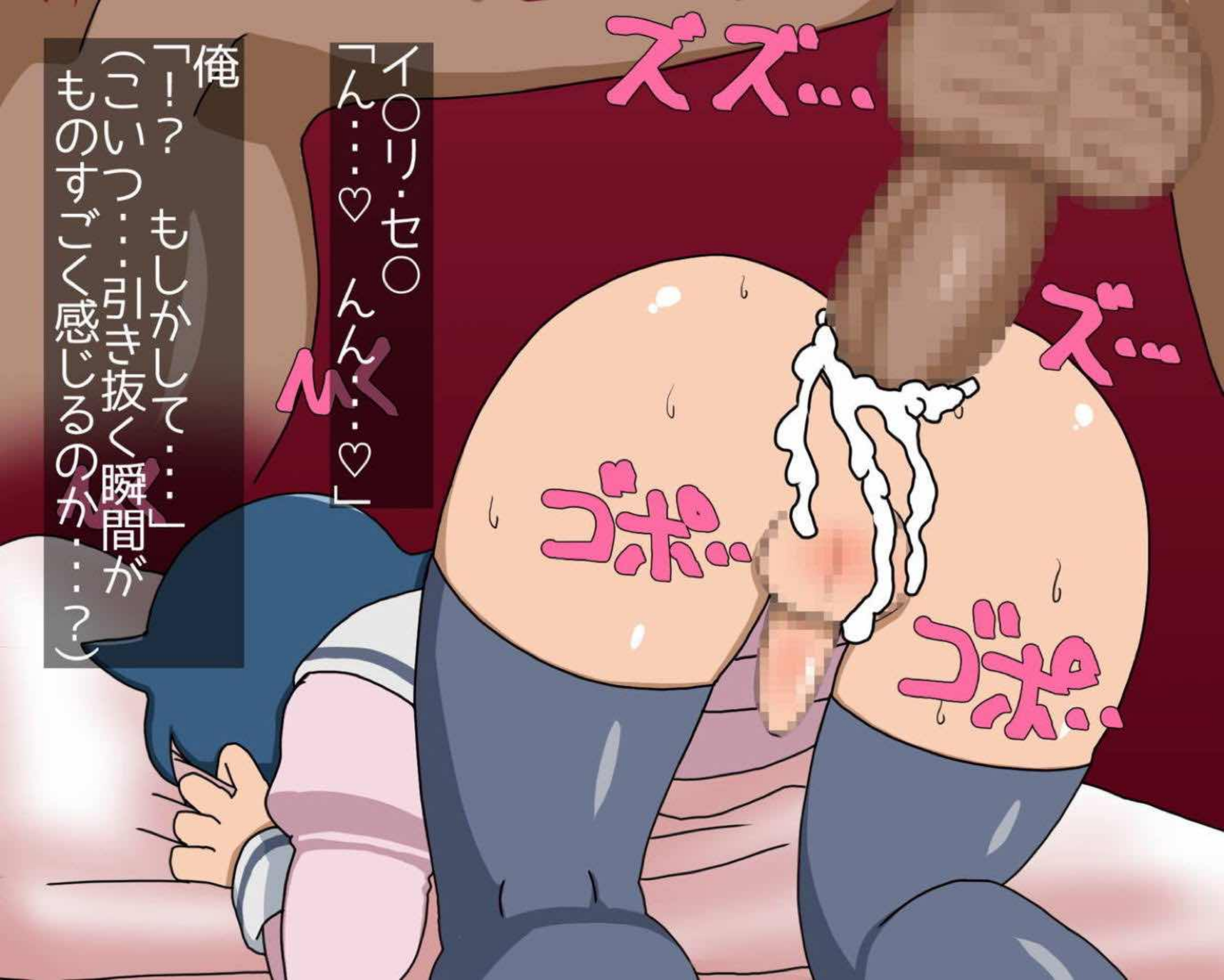
ゴボ...

ゴボ...

「ん...♡んん...♡」

んん

「俺
「!?!?もしかして...
「こいつ...引き抜く瞬間が
ものすごく感じるのか...?」



「イ○リ○セ○
「や……やだ♡
は……早く抜いてよ……」

「俺
「おい……
カノヅヨ♂になれよ……」



ぐりん

ぐりん

「俺
いいからなれ！
カノジ♂になれ！
俺だけのオスマ○こになれっ！」

イ○リ・セ○
「やだ♡やだあああああ♡」



とんぱん

とんぱん

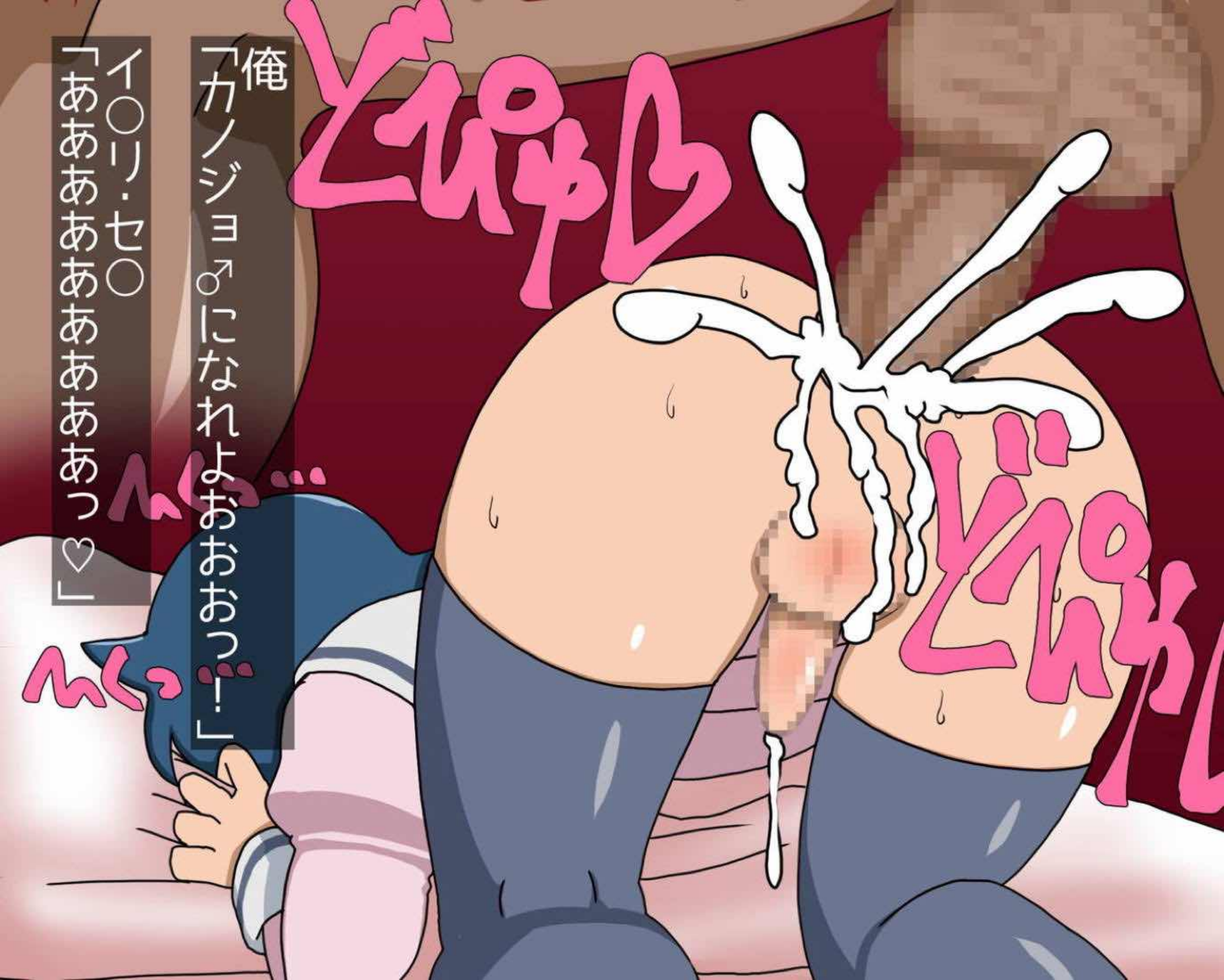
俺

「カノジヨになれよおおおっ」

イ○リ○セ○

「あああああああっ♡」

んんん



「イ○リ○セ○
んああ：：♡ああああ
す、すづかつたああ：：♡
「♡♡

俺
「はあ：：はあ：：
（やつた：：てづたえあつた：：）



勝った……
俺はイリ・セの服を脱がせ……
テイツシュで身を清めてやった……

ここにるのはもうビツチじゃない……
俺だけの……俺だけの……

俺だけのカノジョ♂なんだ……！

イ○リ○セ○
「お兄さん…：…すぐがった♡
今まで、あそこのでやめてた♡
みんなやめたの…：…♡」
「…♡」

くっ

びび

イ○リ○セ○
「ボク…：…お兄さん支配しきれなかつた♡
オンナノコトに…：…これちやつたの…：…♡」



俺
「お前はもう俺のカノジ♂だ...」
オスマ○「もじゅのキン○ムお...」

アハ...

びび

びび

イ○リ○セ○の
「はこ...♡全部、お尻ちゃんのもらっぺ♡」

俺
「よし…処女奪つてやる…
カノジヨ♂になつてからはじめの…
ほんとのメスになつてからはじめの…」

ズググ

ズググ

「うん…♡ヒツチなんだね…♡」





「俺
はあ……はあ……
（やつた……はあ……
これだ……
もう俺のだ……
イ○リ○セ○は完全に……）」

「あ……♡あい……♡
イ○リ○セ○
♡♡

ハア ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア……

イ○リ○セ○
「お兄さん：：すごくかっただよ♡
ボク：：なっちやっただよ♡
お兄さんのカノジョ♡」

俺
「ああ：：そうだ：：それにしても…
トコロテン射精…
胸元まで飛びまくってんな…」

HD...

「イ○リ○セ○
うん：：♡
乳首にもかかって：：♡
お兄さんのミルクで
妊娠しちやっ
たみたい：：♡」

「俺
させやるよ：：
ケツ穴から何度でも：：
俺のミルク出産させてやる：：」



こうして俺は……
イ○リ・セ○をカノジ♂にした……

だが……
500人以上の奴隷を持つイ○リ・セ○……
彼らとの関係は、簡単には整理できない……

しばらくは秘密の関係を続けながら……
奴隷たちからは、金をしばりとり……

二人の明るい未来のために……
そんな話をしながら……
俺とイ○リ・セ○はセックスしていた……



イ○リ○セ○
「ねえ、お兄さん……
ボクたちの赤ちゃん……作らない？」



俺
「ムムムム……っ？
そりゃ、俺だってほっけぢ……」

イ○リ○セ○
「簡単だよ……」
ボクたち二人で……
母さんをめちやくちせに「ジュ○プ○するんだっ」
「♡」



俺
「リ○子○さん……？」
そうか二人で交互に犯しまくれば……」

イ○リ○セ○

「うん：：：♡

ボクたちのミルクが混ぜて…♡
一緒になつてかあさんの中で…」

フフ…

んん…

んん…

俺

「赤ちゃんとして育つのか…」

いいな：：：
想像するだけで…」



俺
「ああ……イッしちゃいな……♡」



「んん♡イッちゃう♡」
イッてっ♡

イ○リ○セ○

「はあ：：：♡はあ：：：♡

じゃあ、+っくそく：：：♡

帰ったらかあさんの食事に…
薬を盛っておくがら：：：♡



俺

「ああ：：：♡

俺達二人の赤ちゃん：：：
がんばって作るか：：：！

と3…

と3…

ビルドシヨタビツチ...
彼らをカノジヨ♂にするよ...

こんなによろばらしい世界が待っている...
俺はこのことを記録し...
なんらかのかたちで、ネットに残す...

こんな幸せ...
俺だけでひとりじめできなよ...

だから、俺以外の誰かも...
自分だけのシヨタビツチを...
ぜひカノジヨ♂にしてくれ...

完